

# いわき市中小企業・小規模企業振興会議 議事録

## 1 会議概要

(1) 開催日時 令和3年7月7日(水) 14:00～15:06

(2) 開催場所 いわき産業創造館 会議室1

(3) 出席者(順不同・敬称略)

○ いわき市中小企業・小規模企業振興会議委員(12名中9名出席) (順不同、敬称略)

区分	所属等	職氏名等		出欠
中小企業・ 小規模企業	福島県中小企業家 同友会いわき地区	副会長	丹野 勇雄	出席
	いわき経済同友会	副代表幹事	小松 ひと美	出席
大企業	いわき商工会議所	市内大手企業復旧・復興懇談会	佐藤 博史	出席
		事業理事		
中小企業 団体等	いわき地区商工会 広域連絡協議会	主任主査	川島 秀一	出席
	いわき産学官 ネットワーク協会	インキュベーションマネージャー	奥瀬 円	出席
	支援関連等専門家	NPO 法人 TATAKIAGE JAPAN 理事長	小野寺 孝晃	出席
		税理士	木幡 仁一	欠席
		マーケティングアドバイザー	橘 あすか	欠席
金融機関	日本政策金融公庫	いわき支店長	津村 政人	欠席
	ひまわり信用金庫	常勤理事兼営業推進部長	児玉 武彦	出席
	いわき信用組合	専務理事	本多 洋八	出席
関係行政機関	いわき市	産業振興部長	小松 尚人	出席

○ 事務局(7名)

所属等	氏名等	
産業振興部	次長兼総合調整担当	中澤 秀夫
産業創出課	課長	大平 賢一
	課長補佐	植野 勝
	係長	山下 大輔
	主査	佐藤 隆太
	主事	森田 翔平
工業・港湾課	課長	七海 満
商業労政課	課長	荒木 学

(4) 次第

① 開会

② 協議事項

(1) 令和3年度経済対策について

(2) ワークシフト促進事業について

(3) 新型コロナ市内経済影響実態調査について

③ 閉会

## 2 内容等

事務局より、令和3年度経済対策(第三次店舗等維持支援金、飲食店等感染拡大防止対策支援金、経営改善支援事業(経営計画改善シート内容は関係委員より説明))、ワークシフト促進事業(いわき産業創造館シェアオフィス、副業人材の活用)及び新型コロナ市内経済影響実態調査について説明し、各委員間での意見交換を行った。

委員間での意見交換の概要は次のとおり。(発言順)

### 【令和3年度経済対策に関する意見交換】

#### A 委員

- ・経営改善シートについて、現実に即した、分析しやすいものになっていると思う。
- ・市の経営改善支援事業について、当方でも経営改善計画の策定支援に取り組んでいるが、事業者の自己負担分を補助してもらえるとということで、大変期待している。
- ・今年一年間は当方でも経営改善計画の策定支援に尽力していきたい。

#### B 委員

・経営側として、どんぶり勘定でやっているところもあったので、経営改善のツールを活用して、現状と今後の方向性を明確化するという意味でよい支援だと思う。

#### C 委員

- ・当方では会員事業者の各種支援金への申請支援を行っている。
- ・国の事業再構築補助金の相談も多くいただいている。
- ・マンパワーの限界があるので、協力して支援に取り組んでいきたい。

#### D 委員

・国の事業再構築補助金の申請を手伝う際、社長から「自社の決算書をこれほど眺めたのは初めてだ」という言葉をいただいたことから、社長と専門家で数字を入力していくのはとてもいいことだと思った。

・市の新規出店支援補助金を活用した事業者の方々も、今回の経営改善支援シートを活用できるのではないかと思った。

#### E 委員

- ・経営改善支援シートについて、事業者の課題や強みを把握するうえで分かりやすいと思う。
- ・事業展開を考える上で、こうした広い視点で支援をしてもらえればと思う。

#### F 委員

・飲食店の方々にとって数字に対する意識が課題だと思うので、自社の現況を知っていただくうえでこうした事業は大変いいことだと思う。

・当方職員にとっても大変良い勉強になるので、地域のお客様と一緒に勉強していきたい。

## G 委員

- ・コロナ禍のような自分ではコントロールできない状況において、すべてがそれ以前に戻ることは難しい。
- ・事業者自ら進んで取り組む必要があり、そうやってコロナ禍後も成長する事業者こそが将来のいわきの経済の中核を担っていく可能性がある。
- ・そうした事業者を積極的に支援することで地域の経済を強くするのではないかと思う。

## H 委員

- ・飲食店の方で数字に苦手意識を持っている方は多いと思うので、このプロジェクトには期待を持たせたい。
- ・今後はコロナのみならず、人口減少は大きな課題になる。人口減少によるマーケットの縮小下でも生き残ることができるように、当事者がしっかり力をつけていかなければならない。
- ・各人が自分の役割を明確にし、責任をもって取り組んでいくことが必要である。

### 【ワークシフト促進事業に関する意見交換】

## E 委員

- ・シェアオフィスの利活用について、当方のこれまでの取組みで培ったノウハウを用いて支援ができないか協議を進めているところである。
- ・副業人材の活用について、東京在住であって地方で腕試しをしたい方の潜在数は多いので、今後の成果に注目したい。
- ・新現役交流会について、一度きりの交流会となるのか？  
→（関係委員より補足説明）
  - ・新現役と企業との面談の場を設けるとい趣旨の交流会となっている。
  - ・面談後のリレーションがうまくいけば、個別に雇用契約を締結することが着地点となる。
  - ・本来の目的の中に移住促進もあるが、そちらの事例は少ない。
  - ・人材は玉石混交だが、エンジンとして、新現役交流会は大変有用である。

## F 委員

- ・当方でも人材のマッチングに取り組んでいるが、なかなか浸透していないのが課題である。
- ・お客様の声を聴くと人材のニーズはあるので応えていきたい。

## H 委員

- ・ワークシフトの骨子として、地域課題を解決する際に地域だけでは閉じたアイデアになってしまうものを、首都圏のアイデアを取り入れることにあると思う。
- ・大手企業の高年収の人は、自分の力を腕試ししたい、スキルの幅を広げたいと考えている人が多いので、そうした人々を地域に呼び込むことに意味がある。
- ・行動の部分は自分で頑張り、アイデアの部分をこうしたプロジェクトで外付けすることを期待している。

### 【新型コロナ市内経済影響実態調査に関する意見交換】

## I 委員

- ・コロナ禍なので、事業者の負担になるような調査は賛同を得られないことも考えられるので、案内文の作成にあたっては、先方の気持ちに立った十分な配慮をお願いしたい。